

第2回ザビエル教会コンサート

パイプオルガンの夕べ

J.S.BACH ~受難節によせて~

演奏

高坂 暢

Nobu Kohsaka

演奏曲目

ヨハン・セバスティアン・バッハ(1685-1750)
Johann Sebastian Bach

トッカータとフーガ ニ短調 BWV565
Tocatta und Fuge d-moll BWV565

オルガン小曲集より
aus Orgelbuchlein

罪なき神の子羊よ BWV618
© Lamm Gottes, unschuldig BWV618

神の子羊なるキリストよ BWV619
Christe, du Lamm Gottes BWV619

われらに幸いを与えたもうキリストは BWV620
Christus, der uns selig macht BWV620

イエスは十字架につけられたまいて BWV621
Da Jesus an dem Kreuze stand BWV621

人よ、汝の大いなる罪を悲しめ BWV622
© Mensch, bewein dein Sünde groß BWV622

主イエス・キリストよ、われら汝に感謝す BWV623
Wir danken dir, Herr Jesu Christ, daß du für uns gestorben bist BWV623

神よ、われらを助けたまえ BWV624
Hilf, Gott, daß mir's gelinge BWV624

前奏曲とフーガ 口短調 BWV544
Präludium und Fuge h-moll BWV544

幻想曲とフーガ ト短調 BWV542
Fantasia und Fuge g-moll BWV542

2006年3月11日(土) 18:00開場 18:30開演

会場

鹿児島ザビエル記念聖堂
〒892-0841 鹿児島市黒田町13-42 TEL 099-222-3408

料金

1000円
《自由席》

チケット
販売

ザビエル教会・山形屋プレイガイド・タカプラ

主催

鹿児島カトリック・ザビエル教会
ホームページアドレス <http://xavier-kagoshima.net/>



こうさかのぶ 高坂 暢 プロフィール

国立音楽大学器楽学科オルガン専攻卒業。
ドイツ国立フランクフルト音楽芸術大学オルガン専攻ソリスト科卒業
現在ドイツ国立ヨハン・ヴォルフガング・ゲーテ・フランクフルト大学において
音楽学・宗教学専攻在学中。

ソロ、室内楽、オーケストラとの共演などコンサート活動。オルガン、ピアノ、
合唱、コレペティートリンなど指導者。ドイツ国内教会オルガニストも務めてい
る。ドイツラジオ放送局より全世界へのドイツ敗戦60周年記念ライブミサのオル
ガニストを務める。ドイツ人作家・オペラ脚本家のタンクレッド・ドーストゥ
のレセプションで音楽を担当するなど、広い分野において活躍中。大学で学び研
究を続けることで、オルガン演奏に対する熱意は一層強くなっている。演奏活動
や指導に、州知事、教会より多数の感謝状、記念品を授与される。

オルガンを、故吉田實、青田絹江、ラインハルト・メンガー、ヨハネス・フォン
エイドマン、ダニエル・ロート の各氏に師事。ピアノを、故児玉邦夫、進藤郁子、
スティーブン・ツェアー の各氏に師事。声楽を、野中匡雄、伊藤雯子、ジョーン
・ドブファー の各氏に師事。

日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会、オルガノン各会員。ドイツ在住。

曲目解説

トッカータとフーガ ニ短調 BWV565

バッハの数多い作品の中で、日本では最も有名で親しまれている曲の一つ。オルガン曲の中では初期の
作品(1705~1710年頃) 即興的で技巧的「トッカータ」が冒頭に置かれ、非常に有名な下降音型で始ま
り、細かい音符が上下する。厳格な理論に基づいて書かれた「フーガ」は、テンポが速くなり主題が何度も
追いかけたり絡み合ったりする。勢いよく大胆で、開放的音楽が感じられる。

オルガン小曲集より BWV618~BWV624

この小曲集は、バッハがワイマール時代(1708~1717年)の1713年から着手した作品。コラール46曲
からなっている中のBWV618~BWV624は、受難節をテーマにした曲。

バッハは、コラールの歌詞内容を音楽の上で表現する事を、当時の弟子たちに望んだと言われている。

前奏曲とフーガ ロ短調 BWV544

この曲は、バッハがライプツィヒ時代(1723~1750年)の1727年~1731年にかけて書かれた曲で、
バッハの円熟味が感じられる壮大な作品。「前奏曲」は、協奏曲形式で書かれている。「フーガ」は、テーマ
が手鍵盤で展開され、終結部に新しいリズム形態の対位声加わる。

バッハは、ちょうど1727年から「マタイ受難曲」の作曲にも取り組んだ。同じ時期のせいか表現、内容が
似ている部分があるところどころで見られるのは、興味深いものがある。

幻想曲とフーガ ト短調 BWV542

この曲は、バッハの傑作の中でも最も名高いオルガン曲の
一つで、「大フーガト短調」の名前でも親しまれている。1720
年ハンブルグの聖ヤコブ教会オルガニスト試験の演奏に臨
んだときに、聖カタリナ教会のオルガニストで試験官であった、
オランダ出身のJ・A・ラインケンの前で即興演奏したと考えら
れている。「幻想曲」は、新新で劇的な響きの大胆な和声。エ
ンハーモニック転調が興味深い。独奏とその伴奏が奏でる部
と、副鍵盤で弾かれる部とが、交互に表れる形式で書かれて
いる。生き生きとしたリズムで始まる「フーガ」も大変美しく、
その美しい主題は古いオランダ民謡に基づき、4声の長大な
フーガが最後まで情熱的に展開される。

